

# 「農民オケ」に大喝采

## デンマークで初の海外公演

道内の生産者や農業関係機関の職員、農学系の学生らで組織する北海道農民管弦楽団（牧野時夫代表）が2月中旬、念願だった海外公演を実現させました。訪問先は北欧の農業国・デンマークのユトランド半島中部にあるシルケボー市で、世界的にも珍しい「農民オーケストラ」の来



北海道農民管弦楽団のデンマーク公演

訪を現地マスコミも大きく報道。一行は温かい歓迎を受けながら、音楽を通じた交流の輪を広げました。

牧野代表によると、参加した団員は約60人で、11日に日本を出発し、13日に同市の市民ホールでの演奏会に臨みました。

プログラムはまず、弦楽器奏者十数人で編成する現地のシルケボー室内オーケストラと合同でモーツァルトの歌劇「魔笛」序曲を演奏。その後、道農民管弦楽団が牧野さん作曲の「独奏バイオリンと和太鼓のための北海道奇想曲」などを披露し、アンコールでは山田耕作曲の「ペチカ」を演奏しました。

「観客が総立ちで拍手してくれるスタンディングオベーションを経験し、団員たちも感激していました」と牧野さん。最後は2度目のアンコールに応える形でデンマーク民謡を演奏し、約350人の観客がそれに合わせて合唱するなど、「農民オケ」初の海外公演は大きな歓声に包まれ

ながら成功裏に幕を閉じました。

また翌14日には、同半島のロンデ市にあるカロー有機農業学校を訪問。同校の学生や近隣の生産者ら約100人を前に、同国で人気の高い作曲家・ニールセンの「木管五重奏曲」などを演奏したほか、両国の農業制度や農畜産業を取り巻く状況などについて意見を交わしました。

道農民管弦楽団は、「農民こそ真の芸術家たりうる」と説いた宮沢賢治を心酔する余市町の果樹農家、牧野さんが、生産者や農業にかかわる仕事をしている音楽仲間と1994年に設立しました。農閑期の冬に練習を重ね、道内で毎年1回の定期公演を続けており、海外公演は団員たちの長年の夢だったといえます。

デンマーク公演は、同国在住で酪農学園大学特任教授も務めている高井久光氏の仲立ちで具体化。同じくデンマーク在住でシルケボー室内オーケストラのメンバーでもある木下澄代さんの協力もあって実現に漕ぎ着けました。

「デンマーク型の酪農を北海道に広めたのが酪農学園ですし、農民主体の民主国家を築こうとしたデンマークの国造りの理念は宮沢賢治の思



「農民オーケストラ」の来訪を大きく伝えた現地の新聞

想とも重なります。そうした意味で今回の公演旅行は、私たちの活動の原点に立ち帰る旅でもあったような気がします」と牧野さん。

現地の農畜産業については、「日本と同様、規模拡大を迫られる厳しい状況にあるようでしたが、そうした中で、自然環境への配慮や古いものを大切にしている心がしっかり受け継がれていることに感心しました」と話していました。